

(委 36-1-2) ¹

PLENARY EVENTS OF IAC2006

(松尾委員)

- * Head of Agencies - Current Programs and Future Plans
- * Operational Earth Monitoring Systems- Challenges for 2015, Actions Required Today
- * Mapping the Journey: Agency Strategies for Space Exploration
- * Major Space Markets in the Next 20 Years and the Corporate Approach
- * Enabling the Frontier: Regulatory Challenges to the utilization of Space
- * **Life on Mars?** - Lesson from Spain
- * The Impact of Space Exploration on Society
- * Space Technology for the Benefit of Society
- * Living Your Dreams

HIGHLIGHT LECTURE

- * Voyager Explores the Final Frontier of the Solar System
- * Venus Express- Exploring Earth's Nearest Planetary Neighbor
- * The origin and Development of the universe

¹ 括弧内(資料番号と発表者)は、実情から判断し、筆者が付け加えたものである。

- * Frank J. Malina: Astronautical Pioneer Dedicated to International Cooperation and the Peaceful Uses of Outer Space

松尾：行っている間快晴であった。開会式にフラメンコが披露され、このまま3時間見せて貰えたら良いと思っていたら3分で終わってしまった。今回のIACで目立ったのは、アジア勢の出席が増えたことで、中国から40名ほど、インドから30名ほどが参加していた。また、中国は若手の参加が目立っていた。

ライフオンマースは100キロほど離れたPH2の川が会場で、火星の環境を想定した実験に利用できるということで、興味ある企画ではあったが参加しなかった。

フランクJマリーナ氏の講演では、**地球規模の大問題が三つ²**あり、宇宙はそれに役に立つことを言っていた。次回インド、次々回イギリスは既に決まっており、その次の開催国を韓国、上海、チェコが競った。最後まで決着がつかず、珍しく総会での投票になったが、韓国が圧倒的多数を集め、開催国と決定した。

² 三つは何かを言わなかったそうである。温暖化ガスの監視とエネルギー問題であると思われるが、もう一つが何か分からない。